

タイトル：“最後のフロンティア”はエコ・フレンドリー

グループ名：中谷ゼミ～ミャンマーグループ～

氏名：永田真隆*川村欣毅、鈴木洋平、小幡駿、里見隼汰、菅地和歩、金原直輝

概要

グローバル化が進む中、世界各国は急速に他国市場の開拓に動き出している。こうした現状で、今最も熱い視線を向けられている市場といえば、アジア“最後のフロンティア”と称される、新・新興国、ミャンマーであろう。

それは、2012年、軍事政権から民主化に移行したミャンマーが約6000万人という人口、インド、中国の中間に位置するなどの地理的好条件、鉱物、天然ガスなどの豊富な天然資源を有する国であることに起因している。

しかし、急速な経済発展はミャンマーにとって大きな社会問題も引き起こしている。その一つが廃棄物処理問題である。私たちはその廃棄物処理に焦点を当て、いかに日本がその問題改善に貢献できるかについて言及していきたい。

ミャンマー第一の都市であるヤンゴン市では、年々廃棄物排出量は増加している。しかしながら、廃棄物処理施設不足や、技術不足、分別の認識不足などの問題に直面しているのが現状である。この現状を打破する為に、日本政府ならびに日本企業も廃棄物処理発電所の建設やリサイクル技術輸出などを目論んでいるがその前提条件であるごみの分別が習慣化はおろか認識すらされていない。そこで私たちはごみ分別の習慣を根付かせる提案を行う。

結論として、ミャンマーにおいてごみ分別を習慣化するこの提案は、日本の廃棄物処理技術・リサイクル技術の輸出やミャンマーの経済発展の大きな助けになると考える。